

令和6年度 貝毒プランクトン出現状況（8月19日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis* 属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期12回目（最後）の8月19日の調査では、その他の *Dinophysis* 属として、*D. caudata* 等が出現しました。

8月5日採捕検体を用いた下痢性貝毒の毒量検査では毒を検出できませんでした。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
①	4/11	5 m	8	12	60		
		10m	14	21	53		
		20m	28	8	60		
②	4/23	5 m	4				
		10m			7		
		20m	4		4		
③	5/2	5 m	42	7	39		
		10m	91	4	60		
		20m	214	32	56		
④	5/15	5 m	56	4	42		
		10m	49		32		
		20m	116	25	81		
⑤	5/31	5 m		3	6		
		10m			11		
		20m	7		28		
⑥	6/10	5 m			24		
		10m			39		
		20m	21		32		
⑦	6/20	5 m			42	6/18	0.01
		10m			25	6/24	0.01
		20m			21		
⑧	6/27	5 m			7		
		10m			14		
		20m			9		
⑨	7/9	5 m			25	7/3	0.01
		10m			15	7/12	0.01
		20m			12		
⑩	7/31	5 m	12		75	7/16	検出せず
		10m	3		15	7/23	検出せず
		20m			11	7/31	検出せず
⑪	8/9	5 m			70	8/5	検出せず
		10m			12		
		20m			11		
⑫	8/19	5 m			4		
		10m			11		
		20m			14		

* 貝毒プランクトンの警戒値は *Dinophysis fortii* については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされています（安本 1993）

* 下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。